

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4371200066
法人名	社会福祉法人姫戸ひかり会
事業所名	グループホームひかりの園ビハール館
訪問調査日	平成 19 年 11 月 28 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 12 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4371200066
法人名	社会福祉法人姫戸ひかり会
事業所名	グループホームひかりの園ビハール館
所在地 (電話番号)	熊本県上天草市松島町今泉1004番地1 (電話) 0969-56-1900
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本市水前寺6-41-5千代田レジデンス106
訪問調査日	平成19年11月28日

【情報提供票より】(平成19年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	9 人, 非常勤 人, 常勤換算 7.1 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 平屋 造り	
	1 階建て	1 階

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日あたり900円		

(4) 利用者の概要(11月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.4 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	やまうち医院 タケモト歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

古代インド語で「安らぎの場所」という意を持つ「グループホームひかりの園ビハール館」は、名前の通りまず入居者、そして職員、家族、地域の人すべての安らぎの場所の実現を目指している。松島の豊かな自然環境のもと、地域の中で最後までその人らしく暮らせるよう職員の親身な見守りや支援が見られる。ホーム独自のリビングプランを基に、一人ひとりの要望や課題に沿った個別性のあるケアの提供という基本的なスタンスを守りながら、ケアプロデュースRX組の青山幸広氏を迎えての新しいスタイルの介護とトランス技術の修得を始めとし、入居者に効果があることは何でもやってみようという積極性と進取の精神をもったホームである。地域認知症介護の先駆としての役割が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 地域の人々との交流に努力が必要であるとの前回の評価結果を受け、ボランティアの募集を行ない、絵手紙指導に地域のボランティアを招き取り組みがなされている。その結果市民文化祭への作品出品にも繋がるなど、評価を活かした積極的な取り組みが行なわれている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は自己評価の意義に関して説明に努め、職員全員で時間をかけ取り組んでいる。自己を見つめる中で課題を発見し改善計画シートを作成、課題への実際的なアプローチが確認できる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 行政関係者、地域民生委員、家族を招き2ヶ月に1度運営委員会を開催しホームの活動報告を行なうと共に、運営について参加者から意見聴取を実施し、サービスの質の向上に努めている。ホームの行事と運営委員会を組み合わせ開催し、委員に行事に参加してもらったうえでの建設的な意見の引き出しに努力している。外部評価を会議で公表し、ホーム現状への理解と更なるサービス向上につなげようという意欲が確認できた。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時に細やかな意見交換や入居者の「今」を伝えるビハール館だよりの送付等を通じた信頼関係の構築により、家族からの意見や相談に積極的に答える体制が整えられている。入居者の症状、将来について不安を感じる家族には、じっくり話し合いを重ねることで不安の解消に尽力している。また家族ぐるみの行事を実施し、意見を出してもらうことで次回に反映させる工夫がみられる。
重点項目	⑤	図書館や総合センターアアロマ等の社会資源の活用や、運動会・五橋祭の見物・温泉入浴等積極的に地域に出かけ、楽しみながら他との係わりを持てる支援が見られる。高齢化率の高い天草地域では、併設の利点を活かした特別養護老人ホームやデイサービスの利用者との交流も、旧知の友人との触れ合いの場として十分機能している。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念の中心をなす「ビハーラ」とは「安らぎの里」の意であり、入居者が一番安らげる場所が、家庭であり地域であるとのスタンスで、地域との関連性を理念の中で重視している。また理念は仏教の教えに根ざしたものでホーム独自のものになっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年に1度尊厳についての講義を法人全体で行い、人としての平等が全職員に徹底されている。管理者は常に日常のケアの場で理念の具体化を示し、職員の誰もが「ビハーラ」を念頭において入居者と接することがケアやアプローチの差(ぶれ)をなくすことに繋がり、理念がホーム生活の基盤として定着している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する民家がなく、小高い丘の上という立地条件を克服するため、地域の祭り・小学校の運動会などの見学に加え、市の文化祭へ入居者の作品を出品する等積極的な機会作りが見られる。また近くの総合センターアロマへ出かけることで、保育園児・小学生との交流の機会を増やしたり、併設の特養を利用した近隣の高齢者との無理のない交流の促進等を実施し、地域との重要な接点を作り上げている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で意見を出し合い1ヶ月かけて自己評価に取り組んでいる。その過程で、地域の人にホームに来てもらう形での交流が少ないこと、入居者の出身地(天草各地域)との交流が少ない等の課題を発見し、今後の取り組みにつなげようと前向きに検討されている。	○	入居者の希望に沿い、行きたい所への個別の外泊付き添いが出来ないかと、非常に高次の課題に取り組まれている姿勢に大いに期待するものである。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の意義を理解し、定期的開催している。その中で、行事・外出先の検討、食事への意見聴取等がサービス提供に直結しており、運営推進会議の有意義な活用が伺われる。行政関係者、民生委員、家族に参加を請い、議題を掲げ意見の掘り起こしに努力が見られるものの、活発な意見交換とまでは至らないのが現状である。	○	多様な意見を反映させるため、メンバーを固定化せず、議題に応じて警察、消防、地域代表、PTA役員等幅広い人材をゲストとして迎えることで、地域の理解と支援をより引き出すことが期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政との間には、相談だけでなく提言も行なう相互関係が作られている。運営推進会議をホームの行事(そうめん流し・餅つき等)と同日に行なうことで、行政関係者に理解を深めてもらい、円満な関係を構築する工夫を行なっている。	○	町村合併前に受け入れていた町職員の研修は双方にとって非常に有意義なものと推察される。担当者と話し合い、再開を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問は頻回であり、職員と家族の細かな意見交換は随時行なわれている。金銭出納、職員の異動も遅滞なく報告されている。写真を多く掲載し、高齢の家族にも読みやすく工夫された新聞を送付し、家族の安心に繋げている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、担当職員を中心に家族の意見をくみ上げる努力がなされているが、特に家族の表情、そぶりに気配りし、話しやすい雰囲気を作ることが心がけられている。家族の参加を伴う行事、外出を行なうことで、入居者のありのままの姿を見てもらい、意見を出してもらう環境が作られている。	○	運営推進会議の議事録を、ビハラー館だよりと共に、会議に欠席された家族に送付されることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームの基本になるメンバーはなるべく異動を抑え、入居者との関係作りに配慮している。異動に関しては認知症介護への適性を重視した人選を行なっている。利用者へのダメージの防止は当然の事ながら、新入職員のスムーズな順応のための研修を充実させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	権利擁護・介護技術・感染症・緊急時対応等多様な研修を実施し、人材の育成にきめ細かに取り組んでいる。研修に際しては、「修得事項」「反省」「感想」「改善」を記録し、実効性のある研修となっている。県外から著名な介護アドバイザー青山幸広氏を迎えての介護技術研修を行なう等、非常に意欲的な姿勢が見て取れる。	○	ただ研修の多いをよしとするのではなく、研修スパンの見直しを行ない、段階的に力をつけられるようなカリキュラム整理を検討中である。他に範となる研修体制に期待が持たれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム・小規模多機能・ケアマネジャーの天草地区連絡協議会の研修や意見交換会に積極的に参加し、相談や情報収集を行なうことでサービスの質の向上に努めている。他のグループホームを見学し、自己のケアに活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながらエ	入居前には家族からの聞き取りを十分行ない、生活歴を大切に、ダメージを最小限にとどめるよう配慮している。待機期間中も家族の相談に応じたり、電話連絡を行なうことで家族の不安軽減に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者それぞれが得意分野で采配を振るえる場面作りがなされている。洗濯物たたみ、調理、盛り付け、野菜作り、干し柿作り等で入居者が活躍する姿が見られた。全員が家族というスタンスで過ごす中で、職員と入居者は言うに及ばず、入居者同士が支え合い励まし合う姿も見られ、入居者間の関係作りへの努力も伺える。また、入居者へのさりげない感謝の言葉かけも心地のよいものであった。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	24時間生活サポートシートに、個別性のあるその人らしい生活への支援が具体的に書きこまれ、思いや希望をかなえるケアが確認できる。昼寝をしたい、相撲を見ながら夕食を食べたい等会話の中から聞き取った希望に関しても確実な申し送りが見られた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日ごろから聴取した本人や家族の思い、課題を基に話し合いを重ねケアプランの作成に至っている。それに加えホーム独自の工夫としてリビングプランが作成され、入居者の生活歴を基本に「今」のニーズに沿った細かい個別性をもったより効果的な支援の実現に繋がっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは6ヶ月に一回であるが、期間に係わらず入居者の状態変化が見られた時は、重要申し送りで気づきを共有し、リビングプランを常に更新することで、日々の状況に迅速な対応がされている。重篤な状態で退院されたばかりの入居者にも暫定プランの作成で、全職員挙げての手厚いケアが実施されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の要望に応じた個別の外出、外食支援が行なわれ、その人らしい生活の実現へ向け努力がみられる。また入院時の付き添いや洗濯物の持ちかえりなど職員の自発的な活動は社会資源としても機能し、事業所の多機能性を十分活かしたものになっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医との関係を重視し、受診に際しては職員が同行する手厚い支援が評価される。医療連携体制確保の指針を持ち、利用者の医療ニーズの充足・健康管理に責任を持つ体制を明文化し、家族との間の信頼関係構築に向けた積極的な取り組みが見られる。また夜間の診療、往診も行なう医師との関係もあり、職員の安心にも繋がっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員間の話し合いはもとより家族とも十分話し合いを重ねた上で看取りを経験したことで、職員の結束も固まり、より安心の体制が出来ている。看取りに関する指針を作成し、家族と同意書を取り交わすと共に、家族の不安軽減への努力が見られた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に接するときは、生活歴に沿った呼びかけや自然な言葉かけが見られた。職員の対応は和やかであり、和気藹々とした中にも節度を保ったものであるとの印象を受けた。記録類は事務室内で記入・保管され、個人情報の保護に十分留意されている。記入漏れに特に注意を要する尿もれパットの使用枚数表等は、部外者の目に触れず、さらに記入しやすいように工夫されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを大切にし、職員が動きながら入居者に接遇することのないよう申し合わせが行なわれている。転寝する人、洗濯物たたみに精を出す人、テレビを見る人、それぞれ好きなことをしながらゆったりと暮らせる支援が見られ、個別の買物や散歩、外出などにも柔軟に対応がなされている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と共に食材選び、メニューの決定がなされている。入居者からのリクエストで急なメニューの変更も度々見られ、柔軟な対応が伺える。調理や後片付けに、無理のない範囲で入居者の参加があり、生き生きとした働きぶりが見うけられた。入居者が活躍できるよう低い配膳台を用意するなど、設備面の配慮もみられる。季節感のある盛り付けがなされ、丁寧な食卓風景が感じられた。職員の気配りで全ての入居者にも話題が提供され、会話や笑い声の絶えない楽しい食事風景となっていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望を大切にし、自由な時間に入浴できる支援が行なわれている。畑仕事の後や夕食後など、本人の意思を大切にし、夜間も夜勤者一人の勤務になる21時までは入浴できるよう努力されている。脱衣に抵抗感がある入居者には、職員と一緒に入浴し安心してもらおう対応もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員との1対1のドライブや、好きなものを食べに行く外出支援など柔軟な対応に努力が見られる。それぞれの入居者の役割が自然に生じ、職員は感謝の言葉をかけながら見守りする様子が確認できた。感謝の言葉が、やる気や張り合いに通じているようである。	○	地域への貢献として、チラシで作った籠などを保育園や学校に寄付するエコ活動の計画がある。家庭や地域から回収した古タオルで入居者が雑巾を縫い社会に還元する循環型エコ活動なども含めた社会貢献にも対応できるホームであると思われる。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームが自由に使える車があり、突発的な外出支援に対応できる体制が作られている。買物や図書館・近くの公園等、多様な外出支援が行われている。法人の広い敷地を活かしての散歩や、雨の日は母体の特別養護老人ホーム内を歩き運動不足を解消したり、同施設内の友人を訪問したりと、併設型グループホームの利点が十分活用されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠もなく、自由な外出が保証されている。玄関付近には柔らかな音色のセンサーを設置し、入居者の安全に備えると共に、職員は常に気配り・目配りを絶やさず入居者の居場所の把握に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いでの防災訓練を年4回実施し、母体の特別養護老人ホームとの連絡・連携体制も整えられている。数分内でホームに駆けつけられる距離に5人の職員が居住していることは、大きな安心にも繋がっている。近々スプリンクラーを設置する予定で、設備面の充実も期待される。消防署・消防団に日頃から協力依頼を行なう等、積極的な取り組みが見られる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事・水分摂取量を食事記録表で把握し、栄養のバランスに注意を払い、不足していると思われる人には嗜好品をとりいれる等、個別の対応をしている。また定期的に栄養師のチェックを受け、栄養の偏りのないよう努力され、食事形態も刻み食やミキサー食など細かく個別に対応されている。入居者が食欲がない場合も、皆と同じ食事を用意し一緒に食卓に着いてもらう事で、食欲回復に繋げている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関からリビング、和室と季節を感じさせる花や小物があしらわれ、家具調度は全く普通の家庭と変わらぬ設えながら、車椅子用のスロープ等必要な設備が過不足なく整えられている。窓から紅葉が眺められ、台所の家事音や職員との会話が生活に活気をもたらしている。和室のコタツやリビングのソファ、ダイニングテーブル周り、ちょっと腰掛けられるこ上がりなどくつろげる場所が複数カ所用意され、「第二の我が家」にふさわしい工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の状況に応じた配慮があり、個別性のある支援になっている。担当職員が入居者と相談し、好みの部屋になるよう家族に協力を依頼したり買物に同行し、その人らしさの実現に尽くしている。家族の宿泊できる部屋も用意され、家族の安心に繋がっている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームひかりの園ビハール館
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	上天草市 松島町 今泉1004-1
記入者名 (管理者)	管理者 深谷 誠 了
記入日	平成 19 年 9 月 24 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念に基づき、入居者の尊厳を大切に、「その人がその人らしく生活を送る」ことを支援する。ターミナルステージにおける対応も視野に入れ、外部機関、医療機関(個々の主治医)と連携を行い、入居者、家族地域とのより深い信頼関係を築く。家族、知人、地域との行き来が自由で、なつかしい出会いの場を大切にしている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	すべての職員が、運営理念を述べる事が出来、運営理念「ビハーラ」=安らぎの場所を目指している。又個別ケアの検討・実施を通してその実現に取り組んでいる。全体会議・GH会議・日々の申し送りにて指導・情報を共有している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	GHの運営理念の啓発、理解のために運営推進会議時に説明や広報誌の発行、面会者への広報誌の配布等を行っている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	小高い丘の上であり、地域住民が気軽に立ち寄ってもらえる環境ではないが、併設をメリットに特養、デイサービス、ショートステイ利用者の行き来が多く、地域の友人、知人との面会、交流も多く持っている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事等には積極的に参加するようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者と職員が協力し折り込みチラシや折り紙等を使い籠等を作成し保育園や学校に寄付出来ればと日常の中で作成している。	○	エコ活動の普及を検討して行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	GH会議を通して、自己評価、外部評価の意義について管理者から全職員へ説明があり理解し、改善項目については早急に検討、対応しケアの向上に繋げている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で実績(入居、退居、入院、外出、外泊等)、活動、日常の様子の報告を行い、行政、民生委員、家族の意見を伺いサービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	季節行事である、素麺流し、餅つき等に案内を行い、参加して頂き、入居者、職員、地域との交流を目的としサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修委員会年間計画として権利擁護の研修を取り入れ、管理者より「権利擁護と命の尊厳」についての講義があり、学ぶ機会をもうけている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修委員会年間計画として身体拘束防止研修を取り入れ、管理者より「身体拘束防止の基本的な理解と対応方法について」講義があり学ぶ機会をもうけている。又地域の虐待防止ネットワークにも参加している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時等に十分な説明を行い同意を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情を受け入れるGH側の窓口及び職員が明確であり、入居者及び家族にその利用の仕方を文書と口頭で伝えている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時に日常の状態や様子を細かい様子まで伝えている。金銭面については出納帳にて管理し、家族へ3ヶ月1回定期的に確認して頂いている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情を受け入れるGH側の窓口及び職員が明確であり、入居者及び家族にその利用の仕方を文書と口頭で伝えている。又運営推進会議時に意見等を自由に表せる様アプローチしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、1回/月のGH会議の中で職員の意見を述べられる機会をもうけている。又管理者と職員との面接の機会もある。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況の変化や家族の要望に早急に対応し出来るよう勤務調整に務め、職員のストレス軽減にも配慮している	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が自由に意見を述べやすいように、常日頃からの職員間の雰囲気作りに気を配り、スーパービジョンを取り入れている。新人職員へは利用者へのダメージが防げるように一日でも早く信頼関係が築けるように実習期間を設け、個別にアドバイスしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事管理制度を取り入れ、職員一人一人チャレンジシートを作成し、目標面接を行い人材育成に取り組んでいる。施設内では研修委員会年間計画に添って学ぶ機会をもうけ、外部研修については職員からの要望を聞き研修に参加出来る体制をとっている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模多機能、グループホームの天草支部連絡協議会での研修や意見交換がある時には参加し、ネットワークづくりに取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の歓送迎会や職員会でのミニバレー大会、バーベキューなどを行い、気分転換出来る場をつくっている。職員間の雰囲気作りに気を配っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事管理制度において、面接を行い、資格取得等について支援している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望時、本人からは認知症により不安な事や要望を直接聞き取る事は困難なケースが多いが、日常的な会話の中からや表情から少しでもくみ取る事が出来き、入居時の移り替わる事へのダメージを少しでも軽減出来るよう務めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談時に施設の方針の説明を行い、実際に入居者の生活されている状況を見て頂きながら。不明な点、不安な点に対しその都度説明を行う。入居までの期間が未定でもあり、その間にいつでも相談受け付け出来ること伝え、又GHからも待機期間の間不安な気持ちが少しでも軽減出来るよう定期的な状況、状態確認の連絡を入れるよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、家族環境、地域との関わり、現在利用されている在宅サービス等、現在の状況を踏まえた上で、本当に必要とされているサービスは何かを見極め入居のみでなく、在宅で過ごせる可能性を視野に入れ、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に事前調査を行い、生活歴、家族構成、心身の状況等を把握し、介護計画を入居者、家族と相談しながら作成している。又特に初期については、面会の頻度を増しながら関係作りを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理作りや野菜作り、園芸などに関して、教えて頂く機会を作っている。又昔からの伝統行事の内容や方法も教えて頂いている。(正月、お盆、彼岸等)		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時に散歩の機会を作ったり、行事参加(盆踊り、運動会、望年会等)を促したりしている。家族と共に季節の野菜で食事のしたごしらえ(つわ剥き、芋づる剥き、豆剥き)をしたりと家族との輪を大切にしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるように積極的に取り組んでいる。和室やリビング、居室に誘導し家族だけで過ごす時間を大切にしている。又家族と連携を取りながら、自宅への帰省や墓参りなど行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等として、地域の人達が遊びに来たり立ち寄り頂けるように取り組み、懐かしい出合いを大切にしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の助け合う気持ちが自然に芽生えてきており、その会話や行動(行為)をさりげない形でサポートしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された後も見舞いに行ったり、退居された家族からも来館あったりと、契約終了後もお互いが行き来しやすい雰囲気づくりに心掛け継続的な関わりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人の生活歴や疾病に配慮し、その人の思いを大切にし、じっくり向き合い会話の中から、要望をくみ取り、どの場面においてもその人のペースで、その人らしく生活していただけるよう支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人一人の生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知るために、家族や日々の会話の中から探り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるために生かしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の日常の状態を把握し異常時の早期発見、早期対応に努めている。毎日バイタル測定し日々の変化に気をつけている。変化については、ケース記録に記載し、申し送りを通して全職員へ伝達し、状態、状況の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりにじっくり向き合い、個々に応じた生活支援を計画書等にそって行っている。個々の要望に応じた趣味活動、外出、外泊等を家族と共同して実施している。医療面についても連携を強化して行っている。個々の生活歴を基にその人らしく生活して頂くために個別のリビングプランを作成し職員間の情報共有に役立てている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行っている。状態変化に応じ、随時見直しを行っている。状態変化時には担当者会議を開催し変更プランを作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況については、ケース記録に記入している。それをもとに担当者会議にてスタッフの意見や思いを計画作成に取り入れるようにしている。状態変化があった場合には担当者会議を開催しケア内容の変更を話し合い、職員間の情報共有を行っている。個別にリビングプラン作成。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	生活歴や家族構成などは、初回計画作成時に適切に把握を行っている。又要望についてはインテーク時のみでなく、本人の日常生活や変化していく家族の要望などを家族面会時に聞き取るなどし、柔軟支援を行っている。(帰宅、外出支援など)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議に地域代表の民生委員に参加して頂き、意見を伺いケアの向上に繋げている、又地域の物産館や公共の施設に出掛け地域交流を図っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性がある時は他のサービス事業所や包括支援センターの協力を得ながらサービス利用に繋げて行く体制であるが、現状では要望なく行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要性がある時は他のサービス事業所や包括支援センターと協働して行く体制はとっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者又は家族が希望し又は納得している医療機関、歯科医療機関を受診している。各入居者の主治医と連携を取っている。急変時、夜間帯も迅速に対応して頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の人の受診の困難さを理解し、受診しやすいよう配慮してくれる医療機関、歯科医療機関を確保している。優先的診療や往診の依頼に迅速に対応していただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	心身の変化や異常発生時に気軽に相談できる医療関係者を確保している。協力医療機関の医師が相談に乗っていただいている。又併設の特養の看護師と医療連携体制を取っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。入院後も病院へ足を運び、担当師長等と話し、状態確認に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の健康状態について、随時又は面会時に家族に連絡し、健康管理情報を共有している。日常の状態も家族面会時に細かい様子まで伝えている。入居者の心身の状態に異変がみられた時は、その都度家族に連絡を入れて、家族の意向を聞き、対応の相談をしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケースについても視野に入れ対応している。ターミナルの受け入れの可否については、家族の要望を聞き取り、医師の意見を仰ぎ、GH内でも全職員へケースの状態、家族の思い、医師の意見を伝え、職員へターミナルとしての受け入れについての意思を聞き取った上で、事業所として見極めターミナルケアの受け入れを行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退居の前後には、入居者が「移り住むことのダメージ」を最小限に食い止めるために、家族等とはもちろん本人に係わる保健医療福祉の関係者と十分な情報交換と話しあいを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知るために、家族や日々の会話の中から探り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるために生かしている。リビングプランを作成し情報共有できるよう活用している。又個人情報の取り扱いについては十分配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者一人ひとりの意思(思い)を大切にしている。買い物、外食などを取り入れ自分で決めたり、選択したり出来る場面を多く持っている。意識的取り組んでいる。例えば、自己決定が難しい場合は「選択、比較決定など」。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の動作や会話のスピードなどに合わせて対応している。訴えがあった場合はゆっくり時間掛け話を聞き納得されるまで向き合い対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	化粧等希望される方へは準備、声掛けし一人一人の個性を大切に支援をしている。希望に応じて、行きつけの美容室への外出なども行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域のふれあい市場に出掛け食材選びをし、旬の野菜で入居者と共に献立を考え、職員も共に食事をし、一人一人の嗜好品を取り入れたり、食事の雰囲気作りに気を配り食欲を高めている。準備や片付けについては、一人一人のその日の心身の状態に合わせて声掛けしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望に合わせ、家族、医師の意見を伺いながら、好みのものを一人一人の状況を把握し日常的に楽しめるよう支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。一人一人の尿意の察知に気を配りさりげなく誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	回数や時間等希望に応じてゆっくり入っていただいている。又介護用品の適切利用により安楽な入浴が実施できている。入浴を好まれない方には日、時間を決めず声かけしている。希望の方には夕食後に入浴されるケースもある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠パターンを個別・日別に把握し、申し送り時情報共有し、安眠に向けた対応をとっている。必要に応じ個別対応として”添い寝”介助も行っている。不眠の原因を明らかにし、その改善に努めている。又昼寝についても個別に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	館内での役割が自然発生的に生じている。その事を支援しつつ、常に自信を高めるような言葉かけや働きかけをしている。共に喜びや悲しみなどの感情を表現する。入居者の出来ることを認め、積極的に声掛けしていく。又ストレスある入居者へは個別に対応している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、日常の金銭を管理していただいている。金銭管理が難しい方であっても、買い物に出掛ける時は、財布を持って頂き、購入された分の支払いは自己で行って頂くなど、金銭管理能力の維持に努めている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自由に外出の希望を伝えられるような雰囲気作りと、入居者の出かけた場所などを日常の会話の中からくみ取りそれを立案し、外出の機会作りを行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者や家族と相談・協力して、行事での外出や旅行等の機会をつくっている。またGHとしても外出希望をかなえるよう支援している。毎年一回は遠隔地(熊本市内など)へも希望に添って旅行している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の要望に応じて、手紙での通信援助や電話使用時の援助など、日常的に利用できるような支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人等が気軽に訪問でき、訪問時には居心地よく過ごせるように、又懐かしい出合いを大切に思い取り組んでいる。面会時には和室やリビング、居室に誘導し家族、知人、友人だけでの時間を大切にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修委員会年間計画として身体拘束防止研修を取り入れ、管理者より「身体拘束防止の基本的な理解と対応方法について」講義があり学ぶ機会をもうけている。当ホームでは身体拘束はしたことが無い。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関などには鍵を掛けていない。外出察知の為に、柔らかい音の鳥のセンサーを設置し、又随時入居者の居場所の把握を常に行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に意識して、見守り出来る場所にいる。又職員間の声掛け、連携を行っている。細かい物音への迅速な確認、対応を行っている。		
68	0 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。一人一人の状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生いた場合には、すべての職員が適確に対応できるよう、研修に取り組んでいる。再発防止策として、ヒヤリハットを作成し活用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急事態の対応のマニュアルに応じ対応出来るようにしている。緊急時に迅速に適確、適切な対応が出来るよう「緊急時の対応」の研修を取り入れている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	4回/年 消防署等に依頼し立会いの元、防災訓練を行っている。又緊急時の連絡網を備えている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人一人の起こり得るリスクについて、歩行状態、や食事摂取状態等近日の状態、状況報告を面会時に伝えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全職員へ顔色、全身状態、様子等を日頃から一人一人良く観察し、体調の変化や異変に気づけるよう身につけている。また併設である特養と医療連携体制をとっており、連絡、連携を図っている。対応後も日々の申し送り場にてスタッフに伝達している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示通りに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。内服薬説明文書に基づき確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	牛乳や食物繊維、唐芋の摂取や、散歩等の運動の機会を取り入れ対応している。個別には、水分の摂取量等の確認をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者の力を引き出しながら口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。1日3回(朝昼夕)支援している。必要に応じ、口臭防止のため液体歯磨きを使用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事記録表(食事摂取量、水分摂取量)を記載し把握を行っている。食事、水分摂取量の少ない方へは個別対応を行っている。(嗜好品の取り入れ等)一人一人の状態に合わせて、咀嚼、嚥下状態を考慮し普通食、刻み食、ミキサー食、その日の状態や、素材によって多種多様で対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルに基づき対応できるようにしていると共に、研修委員会年間計画として「感染症対策と実際」の研修を取り入れている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	事業所内での衛生委員会にGH計画作成者が出席し、注意事項や管理栄養士からの指導事項を全職員へ伝達し、実施している。調理器具は使用前には必ず強酸水で除菌し使用し、食材も強酸水で除菌した後水洗いする等食中毒の予防に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は構造的に家庭的雰囲気を作っている。又玄関先には植物や睡蓮鉢を置いたり、建物周囲にも広々とした花壇を作り四季折々の花を植え雰囲気作りも行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いずれも家庭的な雰囲気を有しており、備品等についても家庭的なものをそろえている。特に季節の花を生けたり、押し花や絵手紙を飾ったりと和らいだ雰囲気作りにも取り組んでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が一人になったり気のあった入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。(リビング、和室、囲炉裏の間、各居室)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族へ自宅で使い慣れたなじみの物の持込を依頼している。一部の方には自宅で使用したものを持ち込み、環境作りを行っている。個人に応じた介護用品を適切に配置している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気・空調は適切に配慮している。気になる臭いや空気のだよみがある場合は室温を確認しながら換気を行っている。個別に悪臭対策として芳香剤の使用や、トイレや床清掃時に強酸水を使っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのフェルストテーブルや浴室の構造、共用・個室手洗いの高さ、調理台の高さや位置、ダイニングテーブルや椅子の高さなど構造的に十分な配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の要望や特技、落ち着けるものが自然に役割となるよう声掛け、援助し楽しみや出番を見出ださせるよう支援している。(自然発生的役割の支援)		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関やテラス、裏庭等でお茶会や日光浴、畑作りを行ったり、季節に合わせ、焼き芋やバーベキューなどを活動として取り入れている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input checked="" type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

運営理念「ビハーラ」＝安らぎの場所の実現を目指しています。入居者の尊厳を大切に、「その人がその人らしく生活を送る」ことを支援しています。ターミナルステージにおける対応も視野に、外部機関、医療機関（個々の主治医）との情報共有を行い、入居者、家族、地域とのより深い信頼関係を築く。入居者一人一人の生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知るために、本人、家族との日々の会話の中から探り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにリビングプランを作成し活かしている。